

## 社会福祉学科

## 介護福祉 専攻

科目名: 介護実習Ⅱ-②			担当教員 氏名: 宮城 和美						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
3	2年次 後期	専門科目	実習	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 専任教員が巡回指導します。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
本科目は、アクティブラーニングを基本とする。利用者の介護計画を立案し、根拠のある実践、評価、修正できることを目標とする。また、実習生自ら設定する課題に基づいて、介護福祉士として必要な能力を習得する最後の実習である。					介護過程の実践 自己課題 多職種連携の実践 職業倫理				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 6. 9. 10				
B 専門的技術			利用者の個別ニーズに応じた生活支援技術の応用ができる能力を習得する。						
D 問題解決力			「利用者の情報を収集・分析し、利用者のニーズに応じた介護過程を展開し、計画に基づいた実践を行い評価できる。課題解決能力を習得する。						
E 自己管理能力			実習を有意義にするために、心身共に自己管理ができる「私」をつくる。						
F チームワーク・リーダーシップ			他職種協働の意義を理解し、チームの一員として生活支援が遂行できる。						
G 倫理観			専門職としての職業倫理について考え、介護福祉に生きる「私」になる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	100 %
特記事項: 実習施設において指導者のアドバイスを受けながら、計画的に介護過程の展開を行います。その際は同じ介護職及び他職種に積極的にアプローチし情報収集を行います。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習 フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: その他100%とは、実習指導者評価と本学教員がそれぞれ行う評価にて決定することをいいます。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 個別面談形式で評価を伝達します。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①	日々の記録や経験録や			記録1時間					
②	介護過程の展開記録の活用								
③									
④									
⑤									
⑥									
⑦	「介護実習要綱」参照								
⑧									
⑨									
⑩									
⑪									
⑫									
⑬									
⑭									
⑮									
使用テキスト: ①最新介護福祉士養成講座『介護総合演習・介護実習』 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版 ISBN978-4-8058-5770-0 ②『介護実習要綱』				その他参考文献など: 『ICF国際生活機能分類』					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習Ⅱ-②は最後の実習になります。今までの実習を振り返り、実践のやり残しが無いよう計画的に実習に取り組みましょう。									